

## 事業の 目的

- ・医師の働き方改革の着実な推進
- ・高度急性期医療機能の維持・強化
- ・教育・研究時間の確保
- ・地域医療支援機能の強化

## 現状・ 課題

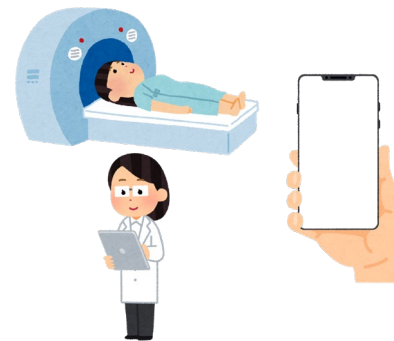
- ・働き方改革により、医師の業務負担が増大
- ・教育・研究活動に充てる時間の確保が困難
- ・高度画像診断ニーズ増加への対応が不十分
- ・ICT基盤・高度医療機器整備の遅れ

## 事業 概要

- ・医療DX（医療用スマートフォン導入）による業務効率化と働き方改革
- ・高度医療機能集約（Photon-counting CT導入）による診療・教育・研究の高度化

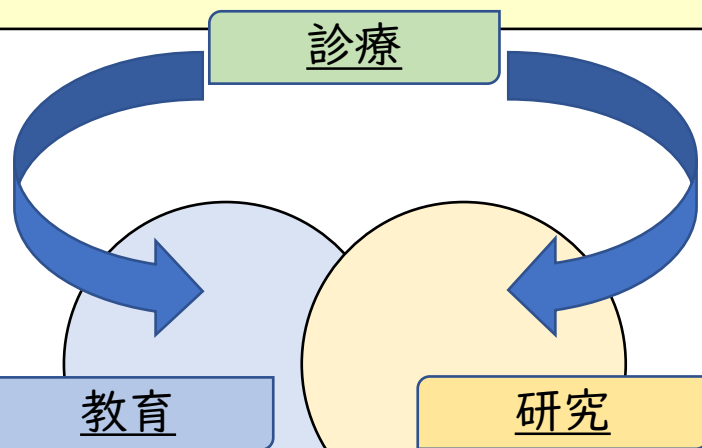
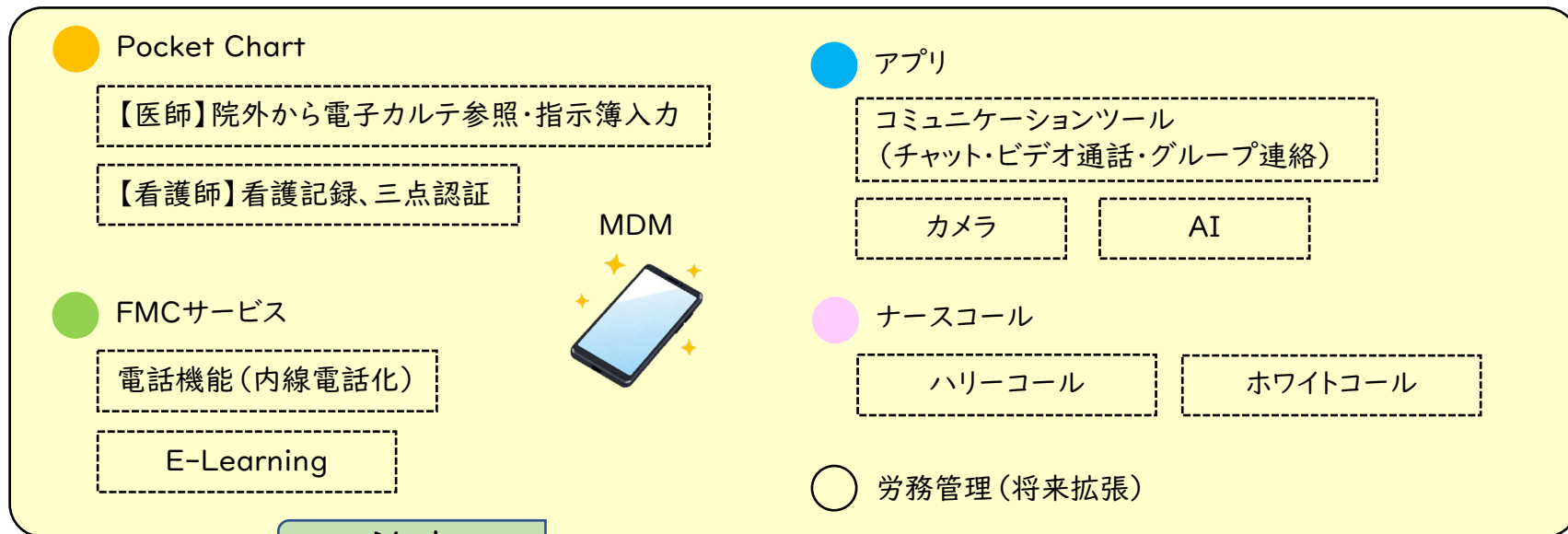
## 効果

- ・働き方改革と教育・研究基盤強化の同時実現
- ・高度医療提供と地域医療構想への対応
- ・大学病院経営の持続性確保

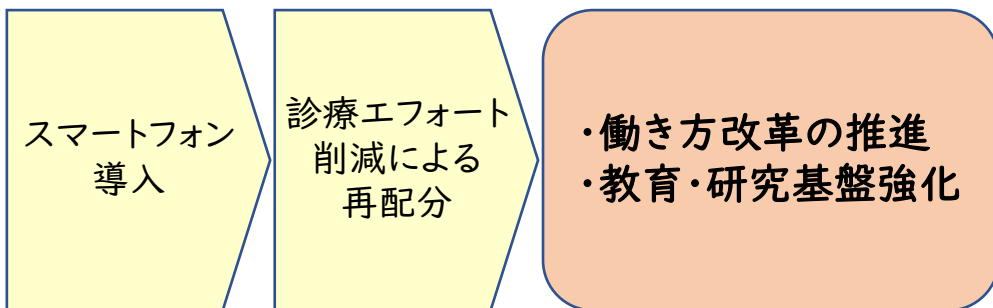


医療DXと高度医療機能の集約を通じ、働き方改革と大学病院機能強化を同時に実現

## 医療用スマートフォンの導入による働き方改革の推進・教育研究基盤の強化



創出した診療エフォートを  
教育・研究活動へ再分配



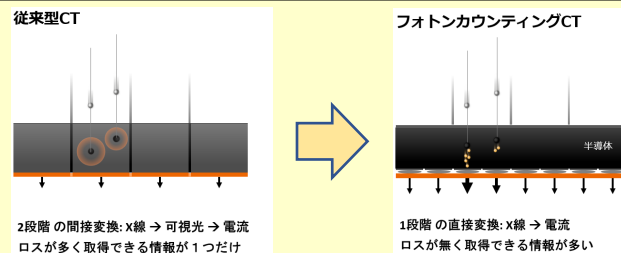
高度医療提供と人材育成を両立

## Photon-counting CT導入による病院運営の構造転換

### 【技術基盤】

#### Photon-counting CT

- ・X線光子を直接電気信号として検出
- ・超高精細・低ノイズ・定量・スペクトル情報を同時取得
- ・微細構造・定量評価を日常診療で活用可能



### 【診療プロセスの進化】

導入前: CT検査 → 追加侵襲的検査 → 診断確定  
導入後: 超高精細画像 + 定量情報 + スペクトル情報  
= ワンストップ診断

診断精度  
向上

迅速化  
効率向上

働き方  
改革

### 【大学病院機能強化】

#### 診療

- ・高度急性期医療の質向上
- ・地域全体の診断・治療レベル向上
- ・高度診断のハブとして機能

#### 教育

- ・追加検査に頼らない新しい診断プロセスを学習
- ・画像・定量値・スペクトルを同時に考察する診断
- ・高度な診断だけではなく、診断に至る“思考”を教育可能

#### 研究

- ・超高精画像・定量データを活用した研究推進
- ・CTデータを基にした臨床研究による学会発表・論文文化

診療・教育・研究を同時に高度化する基盤装置となる